

支援者の皆様 各位
党所属各級議員 各位
党本部・都道府県連・総支部関係者 各位

ご報告と御礼

昨年 10 月末の民進党代表就任、及び今年 5 月の国民民主党共同代表就任以降、ご支援、ご協力をいただいていた多くの皆様方に心から御礼申し上げます。合わせて、支援者の皆様、党所属各級議員の皆様に、9 月 4 日の代表選挙に私自身は立候補しない意向であることをご報告申し上げます。

かねてより、多くの機会に申し述べてきましたが、改めて我が国の議会政治、民主主義の歴史と現状に関する認識を共有させていただきたいと思います。

日本に国会が設立されて 129 年、普通選挙になって 72 年、本格的政権交代が実現してわずか 9 年。日本の議会政治と民主主義はまだまだ発展途上にあります。

日本国憲法には国民主権が定められています。総選挙の際に政権を選択できることが、主権者である国民の唯一とも言える権能であり、それが国民主権の意義です。しかし日本では、長年与党にある自民党からの本格的な政権交代は 2009 年に起きたのみです。

政治の方向性、政策の是非については、人によって考え方は様々です。だからこそ、事実を公開・共有し、異なる意見を否定することなく、時間の許す限り熟議を尽くし、決まったことには従うものの、何が正しいか、何が正義かは、人によって考え方が様々であることから、権力は抑制的に運用する。それが民主主義の本来の姿であり、中道政治の本旨であると思います。

そうした観点に照らしてみると、少数意見を傾聴せず、熟議を避け、権力を濫用する現在の日本の政治にあり方は、民主主義の危機です。その状況を是正し、日本の民主主義の質をさらに高めるために、再度本格的な政権交代を実現することが必要と考えます。

2012 年の下野以降、野党第 1 党である民主党、民進党は低迷してきました。さらに、昨年秋の総選挙に際して民進党が分裂し、ご支援いただいていた皆様方のご期待に応えられなかったことを、当時の所属議員のひとりとして、改めてお詫び申し上げます。

総選挙後に私は民進党の代表に就任しました。私が代表をお引き受けさせていただいた理由は、上述のとおり、ひとえに日本の民主主義の質をさらに高め、次なる本格的な政権交代を実現するべく、新たなスタートを切るためでした。

したがって、代表就任直後から、3 つに分かれた民主党、民進党勢力の「三党連携」を訴えてきました。しかしながら、総選挙時の遺恨や感情的軋轢を抱える衆議院議員を中心とした人間関係や力学が障害となり、「三党連携」は容易ではありませんでした。この間、総選

挙時の国政の事情に直接的には関係のない全国の自治体議員の皆様にも多大なるご苦勞とご心勞をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。

そうした中、4月には心機一転、新しい党として次の本格的な政權交代を目指すべく新党結党を呼びかけさせていただき、5月7日、志を同じくする仲間とともに国民民主党を結党しました。

国民民主党は、国民生活の向上、国民經濟の發展、国民主權の実現という意味を込め、「国民」という名前を冠しました。とりわけ、国民主權の実現のためには、今後も本格的な政權交代を目指すことが、国民民主党の使命です。

もちろん、時の政權が善政を行い、民主主義に忠実な運営を行っているのであれば、政權交代の必要もなければ、国民の皆様が政權交代を選択する必然性と合理性はありません。

しかし、安倍政權の現状を鑑みると、事実を隠蔽・改竄・廃棄し、異なる意見を一顧だにせず、熟議を避け、権力を濫用する姿は、民主主義の本来の姿にはほど遠く、日本に民主主義の危機をもたらしています。

かかる状況下、国民民主党は次の政權交代の中核となるべく、地道かつ真摯な努力を続けるとともに、所属議員一丸となって「党勢拡大」を実現しなくてはなりません。

こうした中で代表選挙を迎えることとなり、昨年の総選挙後の対応を委ねられた私としては、一定の区切りをつける意味で、今回の代表選挙には立候補しないことが適当と判断しました。代表選挙後の新体制下で、党所属議員として、全力で党勢拡大に取り組みます。

この間、所属各級議員の多くは、厳しい環境と苦しい状況の中で、「党勢拡大」と「野党連携」にご尽力いただいています。そのことに感謝申し上げますとともに、新代表には、当事者意識をもって、そうした活動を真剣に行ってきた議員が相応しいと思います。

党の現状に関して第三者的な論評や批判をすることなく、何事も前向きに捉え、これまでに十分な努力を行ってきた明るい候補者を応援したいと思います。そういう候補者でなければ、まだまだ民主主義の發展途上にあり、野党に風当たりの厳しい日本において、次の政權交代、すなわち、普通選挙による日本の憲政史上2度目の本格的政權交代の中核となる新たな国民政党を支え、育てることはできないと思います。

現在の野党の構造を鑑みると、次の政權交代を目指すためには、私自身が昨秋来「三党連携」を模索し、その後も「野党連携」を訴えてきたように、引き続き野党の協力・連帯を追求していくことが不可欠です。他の野党においても、その方向性を共有していただくことを期待します。そうでなければ、いずれの野党も、日本の民主主義に危機感を抱く多くの国民の皆様への負託に応えることはできません。

したがって、国民民主党にとって「党勢拡大」と「野党連携」はこれまでも、これからも、変わらぬ至上命題です。今回の代表選挙の争点は路線選択ではありません。党運営の路線は、いずれの候補者にとっても「党勢拡大」と「野党連携」であることは、不可避の現実です。

今回の代表選挙では、国民民主党が目指す方向性、政策ビジョンについて自由闊達で活発

な議論が交わされることを期待します。国民の皆様は、国民民主党が何を目標としているかを明確に認識していただける機会となることを願います。

国民民主党の代表は、次の政権交代における潜在的な首班候補のひとりです。それを感じさせる前向きな議論が行われ、それに相応しい候補者が選ばれることを祈念します。

そのうえで、新代表には、結党宣言に明記した、「正直な政治」「偏らない政治」「現実的な政治」を追求し、広く国民各層からご支持いただける新しい国民政党として、国民民主党を発展させることを期待します。もちろん、私自身も党所属議員として全力で努力します。

最後になりますが、この間、厳しい環境の中で一緒にご奮闘いただいた全ての党所属各級議員、党本部・都道府県連・総支部関係者、ならびにご厚情、ご高配をいただいたご支援者の皆様に、重ねて心から御礼を申し上げます。

より良い日本をつくるために、今後とも、ご指導、ご鞭撻、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 8 月 10 日
国民民主党共同代表 大塚耕平